

日本体育・スポーツ政策学会 第 34 号

会 報

令和 7 年 3 月 31 日 発行

巻頭言

真山 達志（同志社大学）

横山勝彦先生の会長ご退任を受けて、2025 年 4 月より会長職を拝命いたしました同志社大学の真山です。横山先生は、長きにわたって本学会の誕生、発展に尽力されてきましたので、名実ともに学会の代表者としての会長でした。一方、私は学会に対してこれといった貢献を果たすこともなく末席を汚していただけの身ですので、まったく力不足ではありますが、最善を尽くす所存ですので、なにとぞご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。

さて、多くの会員にご執筆いただきました『スポーツ政策学』（成文堂）が本年初秋には刊行予定です。同書は、その書名からも明らかなように、スポーツ政策学が「学」として確立したと言うに値するレベルにまで発展したという認識の下に編まれています。ひとつのディシプリンとして認められるためには、研究対象、研究目的、基本的な概念、用語、あるいは分析方法などに一定の共通理解が確立されていることが求められるでしょう。そして、それらの共通理解を前提に、多くの研究者が研究業績を蓄積していくとともに、次世代の研究者を養成する体制が整っていることも求められます。したがって、同書を通じてスポーツ政策学が「学」と名乗るだけの水準に達しているかを世に問うとともに、同書を使った講義や演習が全国の大学・大学院で展開されることを期待しています。当初の予定より出版が遅延しご迷惑をお掛けしていますが、大学・大学院で授業を担当されておられます会員におかれましては、教科書や参考書としてご採用くださいますと幸甚です。

「学」としてのもうひとつの課題として、その研究成果を社会に還元し、社会貢献を進めることが挙げられます。しかし、スポーツを取り巻く社会環境は、日々刻々と変化し複雑化していますので、社会と「学」の関わり方は簡単には答えが出ません。例えば、第 3 期スポーツ基本計画

で主要な施策として挙げられている12の施策（①多様な主体におけるスポーツの機会創出、②スポーツ界におけるDXの推進、③国際競技力の向上、④スポーツの国際交流・協力、⑤スポーツによる健康増進、⑥スポーツの成長産業化、⑦スポーツによる地方創生・まちづくり、⑧スポーツを通じた共生社会の実現、⑨スポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化、⑩スポーツ推進のためのハード・ソフト・人材、⑪スポーツを実施する者の安全・安心の確保、⑫スポーツ・インテグリティの確保）を一瞥しただけでも、スポーツが国内外の様々な社会事象と関わっていることが見て取れます。したがって、スポーツ政策学が社会貢献を果たすためには、「政策学」や「政策科学」がそうであるように、学際的アプローチが必要になります。一方で、学際的科学の特徴として、独自の研究対象や研究方法が確立することが難しいとか、研究者ごとに異なるマザー・ディシプリンを持っているといった悩みを抱えることになります。

学会としてスポーツ政策学の体系書をまとめる段階まで発展したとはいえ、まだまだ課題は多いと言わざるを得ません。そのことは、「学」としても学会としても、まだまだ伸び代があると前向きに捉えていきたいと思います。私としては、学会発展過程の一時期に、僅かながらでもお手伝いできればと思いますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

《学会大会報告》

日本体育・スポーツ政策学会 第34回大会報告

実行委員長 真山 達志（同志社大学）

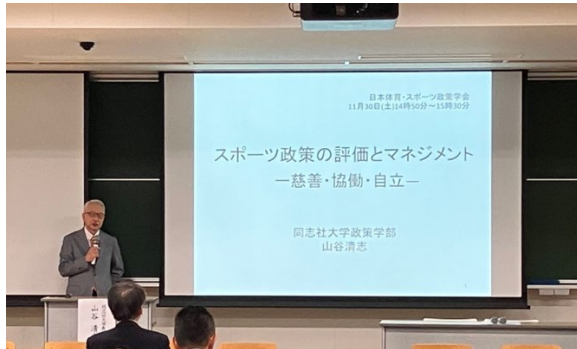
第34回大会は2024年11月30日（土）・12月1日（日）に、同志社大学今出川キャンパスにおいて開催されました。一般会員44名、学生会員3名、非会員21名の計68名の参加がありました。大会実行委員をお引き受けいただきました尾原弘恭、沖村多賀典、内藤正和、平塚卓也の各会員はもとより、出雲輝彦理事長、黒澤寛己事務局長、木藤友規会計担当理事など、多くの会員の皆様に大変お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。

大会テーマは「スポーツ政策の実装—スポーツ価値のデリバリー」としました。このテーマのもとで、スポーツ政策が想定する効果が社会に着実に伝達され、スポーツの諸価値が社会に

おいて実感されたり効用を生み出したりすることを「スポーツ政策の実装」とし、スポーツ政策の「実装」の現状と課題を学術的に解明することを目指しました。具体的には、①スポーツの諸価値が社会に伝達されるスポーツ政策のデリバリー・システムの実態や課題の検討、②デリバリーの結果として社会においてスポーツがどのような効果・効用を生み出したのかといった政策評価についての検討、そして③現在の政策に対する評価結果を政策形成（政策の企画・立案・決定）にどのように反映するべきかの検討などについて議論を展開することを目的としました。

まず、日本の政策評価研究の第一人者である山谷清志氏（同志社大学政策学部教授）に「スポーツ政策の評価とマネジメント—慈善・協働・自立—」と題して基調講演をお願いしました。評価の現状は、その目的、手法、活用方法などで混乱があり、必ずしも評価に精通した人たちによって運用されているわけではないと

いう問題点がある一方で、本来の評価は良きガバナンスを確立する上で必要なものであるということを認識することができました。



山谷清志氏のご講演

シンポジウムでは、内藤正和会員のコーディネートにより「地域におけるスポーツ政策のデリバリー・システムはいかにあるべきか」のテーマで実施しました。まず、水谷洋夫氏（京都市文化市民局市民スポーツ振興室スポーツ企画課長）、大濱三平氏（NPO 法人スマイルクラブ理事）、熊谷哲氏（公益財団法人 笹川スポーツ財団上席特別研究員）にそれぞれ行政、スポーツ団体、研究者の立場からキーノートレクチャーをしていただき、その後にパネルディスカッションを行いました。主要な論点は、スポーツの価値創出のためのデリバリー・システムのあるべき姿と、価値創出に重点を置いた政策評価のあり方で、大会テーマにそった議論が深まりました。

今大会では、新たな試みとして会員企画セッションを設定し、次の2つのセッションが実施されました。すなわち、伊吹勇亮会員の企画による「オリンピック・パラリンピックのレガシーの設定と評価—スポーツ価値のデリバリーを実現する政策立案と政策評価とは—」と、黒澤寛己会員の企画による「大学リソースを活用した中学校部活動地域移行の政策展開—京都府との連携事業について—」です。いずれも、

今日のスポーツ政策における重要な論点に関わるもので、多くの会員の関心を集めていました。



シンポジウムの様子

学会大会参加報告

楊 紅梅

（筑波大学大学院）

私は筑波大学大学院スポーツ政策学博士後期課程に在籍しており、日本体育・スポーツ政策学会大会には今回で二度目の参加となりました。今回の大会は京都・同志社大学で開催され、一般研究発表の機会をいただきました。この発表を通じて、多くの先生方と直接意見交換ができ、大変よい時間となりました。

私は、日本の相撲協会が伝統的な競技団体として近代以前の運動文化をどのように現代まで維持・発展してきたのか、という問いについて明らかにすべく、特に、スポーツ団体の法人化に着目し、組織・制度の形成過程、政策決定やスポーツ団体のガバナンスについて研究を進めています。

本大会では、「江戸時代から明治初期における相撲団体の制度の形成に関する研究—歴史的制度論の視点から—」というテーマで、一般研究発表をさせていただきました。本研究は博

士論文の第1章に当たるもので、江戸時代の勸進相撲団体が明治初期に近代的相撲団体に変化した要因を明らかにすることを目的としました。座長の中村広美先生や平塚卓也先生、植田俊先生から貴重なご意見やアドバイスをいただき、博士論文の執筆のために有意義な機会となりました。

また、「スポーツ政策の実装—スポーツ価値のデリバリー」をテーマに行われた、オリンピック・パラリンピックのレガシーの設定と評価に関する講演も拝聴しました。さらに、京都市と大学リソースを活用した中学校部活動の地域移行の事例についても講演があり、スポーツ政策の実践的な取り組みについて理解を深めることができました。

最後に、このような貴重な学術交流の場を提供して下さった実行委員長の真山達志先生をはじめ、実行委員会の皆様、本学会関係者の皆様に心より感謝申し上げます。また、日頃よりご指導くださる指導教授の先生にも厚く御礼申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

学会大会参加報告

麻原 恒太郎

(日本体育大学大学院)

私は、本年度入会と、日本体育・スポーツ政策学会第34回学会大会に参加させていただきました日本体育大学大学院生の麻原恒太郎と申します。大会では、中学校運動部活動の「地域移行推進計画」策定の現状と課題について—地方自治体政策担当者へのインタビュー調査から—と題しまして、一般研究発表セッション

II-A座長舟木泰世先生のもと、発表をさせていただきました。

私は、子どもの権利条約、こども基本法、スポーツ基本法等を礎に、中学校運動部活動の地域移行という大きな制度改革によって子どもがスポーツを諦めてしまわない地方自治体の政策・施策の策定と運用（事業展開）はどうあるべきなのかを提言するために研究を行っています。

今回のセッションでは全国で様々な取り組みが挑まれている状況の中で進まない自治体も少なからずあることから、その原因を探るために、最前線のキーマンとなる地域移行推進計画を策定する地方自治体の政策担当者及び総括コーディネーターへのインタビューをまとめ、議論の足掛かりとして発表をさせていただきました。会場からは、そもそも地域移行ありきの研究であり、移行の是非を最初に述べるのが肝要ではないかとのご指摘により、重要な視点を心得る事ができました。

また、会員企画セッションの大学リソースを活用した中学校部活動地域移行の政策展開では、スポーツ庁スポーツ戦略官大野雅史氏の基調講演「中学校部活動地域移行の政策展開」は興味深く拝聴させていただきました。今後は、スポーツ庁が設置した地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議及び地域スポーツクラブ活動ワーキンググループの成果や補助制度、学習指導要領改訂を注視しつつ、情報交換会も含めまして、今大会において得られました様々な知見や情報を活かし、また市役所38年・市スポーツ協会5年の経験を活かしながら子どもたちのために、研究を続けて参りたいと思います。

《体育・スポーツ政策セミナー報告》

関東セミナー報告

セミナー担当理事 日比野 暢子

全ての人がスポーツにアクセスできる社会の重要性が世界的に謳われているなか、2020 東京オリンピック競技大会には、オリンピック史上、初めて男性から女性に性を変更したアスリートが出場した。その一方、トランスジェンダーの選手の競技参加については様々な議論があり、競技団体の判断に委ねられている。

そこで本セミナーでは、トランスジェンダーの選手の競技参加の政策立案過程において、医師の立場から見る課題についてお話し頂いた。また関係する団体での政策立案に向けて、それらの課題に対しどのような取り組みをなされているかについてもお話をお伺いすることで、政策立案の過程とその過程にて向き合う政策課題について学ぶ場とした。

〈第 3 回関東地区体育・スポーツ政策セミナー〉

日時：2024 年 5 月 25 日(木) 18:30-20:00

テーマ：「医師の立場から見るトランスジェンダーの競技参加に係る政策課題とは」

講師：貞升彩(千葉大学)

方法：ビデオ会議アプリ(zoom)を用いたオンライン開催

参加人数：110 名

※第 1 回は 2022 年度開催、第 2 回は 2023 年度開催

関西セミナー報告

セミナー担当理事 内藤 正和

関西セミナーは、昨年に引き続き、ビデオ会議アプリ(zoom)を使用して開催した。講師は、体育・スポーツ政策に携わる方だけでなく、多様な分野の方をお招きしている。内容については、まず前半部分で講義いただき、後半部分では、講師と参加者による積極的な議論が行われている。今後も、学会員にとって 有意義なセミナーを開催したいと考えている。

〈第 1 回関西地区体育・スポーツ政策セミナー〉

日時：2024 年 5 月 18 日(土) 15:00~17:00

テーマ：「スポーツにおける社会的インパクト評価の実装」

講師：田上悦史氏(株式会社ザスモールシングス代表取締役社長)

概要：現在、スポーツにおける社会的インパクト評価や SROI の導入の必要性が指摘されているが、具体的取り組みは端緒にいたばかりである。そこで、本フォーラムでは、最新の動向と実践事例を交えながらご報告いただいた。その後、質疑応答を行った。

方法：ビデオ会議アプリ(zoom)を用いたオンラインのハイブリッド開催

《2024 年度総会・理事会報告》

※開催順

〈第 1 回理事会〉

日時：2024 年 6 月 22 日(土) 9:00~10:30

方法：オンライン会議(zoom)

【審議事項】

- (1) 2023 年度第 5 回理事会議事録(案)の確認
- (2) 会長選挙規程の改正(案)について

(3) 臨時総会（7/20 10:00～11:00）の開催、
議案及び資料について

(4) 第 34 回大会について

(5) 学会賞・奨励賞の選考について

(6) 新入会・退会者の承認について

(7) その他

【報告事項】

(1) 会報について〔担当理事〕

(2) 研究誌発行について〔編集担当〕

(3) 学会出版企画について〔編集事務局・理
事長〕

(4) セミナーについて〔セミナー担当〕

(5) 関連団体の情報連絡等について〔渉外担
当〕

(6) 学会ホームページについて〔HP 担当〕

(7) その他

〈第 2 回理事会〉

日時：2024 年 11 月 24 日（土）9:00～11:00

方法：オンライン会議（zoom）

【報告事項 1】

(1) 2025-2026 年度会長候補者及び理事候補
者選挙の結果に関する報告

(2) 第 34 回大会プログラム（確定版）

【審議事項】

(1) 2024 年度第 1 回理事会議事録（案）の確
認と承認

(2) 2024 年度総会議事次第（案）の確認と承
認

(3) 2024 年度総会提出資料の審議

(4) 2024 年度学会賞・奨励賞の選考結果（案）
の確認と承認

(5) 新入会者及び退会者の確認と承認

(6) その他

【報告事項 2】

(1) 出版企画（『スポーツ政策学』）について

(2) 研究誌発行について

(3) 学会ホームページについて

(4) 関連団体の情報連絡等について

(5) セミナーについて

(6) その他

〈第 3 回理事会〉

日時：2024 年 11 月 30 日（土）11:30～12:00

方法：対面会議

場所：同志社大学今出川キャンパス寧静館 4 階
会議室

【審議事項】

(1) 2024 年度第 2 回理事会議事録（案）の確
認と承認

(2) 2024 年度総会議事次第（修正案）の確認
と承認

(3) 2025-2026 年度監事候補者の確認と承認

(4) 2024 年度総会提出資料の確認と承認

(5) その他

【報告事項】

特になし

〈総会〉

【審議事項】

(1) 2023 年度総会議事録の確認について
（案）

(2) 2024 年度臨時総会議事録の確認につい
て（案）

(3) 2023 年度事業報告について（案）

(4) 2023 年度決算報告について（案）

(5) 2025 年度事業計画について（案）

(6) 2025 年度収支予算について（案）

(7) 2025-2026 年度理事候補者について（案）

(8) 2025-2026 年度監事候補者について（案）

(9) 会則の改正について(案)

(10) その他

【報告事項】

(1) 2025-2026 年度会長候補者について

(2) 2024 年度事業進捗報告

(3) その他

【2024 年度学会賞の表彰】

日比野幹生著『ドーピングの誘発と抑止』成文堂(2023 年 2 月 1 日発行)

〈第 4 回理事会〉

日時：2025 年 3 月 23 日(土) 10:00～11:00

方法：オンライン会議 (zoom)

【審議事項】

(1) 2024 年度第 3 回理事会議事録(案)の確認について

(2) 2024 年度総会議事録(案)の確認について

(3) 2024 年度収支報告書(案)

(4) 第 34 回大会収支報告(案)について

(5) 顧問規程(案)について

(6) 第 35 回大会の開催日程(案)について

(7) 会費未納退会者について

(8) 新入会・退会者の承認について

(9) その他

【報告事項】

(1) 学会誌発行について〔編集担当〕

(2) 会報について〔会報担当〕

(3) 学会出版企画について〔編集委員会事務局〕

(4) 学会ホームページについて〔HP 担当〕

(5) 関連団体の情報連絡等について〔渉外担当〕

(6) セミナーについて〔セミナー担当〕

(7) 第 34 回大会の報告〔実行委員長〕

(8) その他

学会誌の原稿募集について

学会誌『体育・スポーツ政策研究』の原稿を募集しております。投稿規定をご確認の上、編集委員会事務局へ、word ファイル形式の原稿をメール添付にてご送付ください。

『体育・スポーツ政策研究』編集委員会事務局

Email : jsppes.edit@gmail.com

北海道教育大学岩見沢校 武田 丈太郎研究室

《2024 年度新入会員》

〔正会員：一般〕

慶田花 英太(沖縄国際大学)

麻原 恒太郎(日本体育大学大学院)

〔正会員：学生〕

新入会員なし

〔購読会員〕

新入会員なし

(敬称略、所属等はいずれも入会申請当時)

【会員数】

正会員 137 名

学生正会員 10 名

顧問正会員 6 名

合計 153 名

購読会員 2 件

図書館等賛助会員 4 件

《事務局だより》

◇住所変更などはお早めに事務局へ

ご異動等によるご住所・所属・連絡先等の変更がある方は、学会 HP のフォームにて至急事務局までご連絡ください。

◇年度会費お支払いのお願い

令和 6 年度会費、前年度までの未納会費のお振込みをお願いいたします。

- ・口座名：日本体育・スポーツ政策学会事務局
- ・郵便口座 No.：00130-4-561426

◇学会誌のバックナンバーについて

学会誌「体育・スポーツ政策研究」のバックナンバーを 1 部 2,000 円にて販売しております。ご希望の方は事務局までご連絡ください。

◇学会ホームページについて

本学会ホームページが下記 URL で公開されております。

- ・日本体育・スポーツ政策学会 HP
- ・<http://www.jsppes.org>

◇『スポーツ政策学』の刊行予定について

2022 年 3 月 26 日の理事会において標記出版企画が承認されて以降、本学会会員を中心に広く（58 名）執筆を依頼し、編集作業を進めてきました。当初の予定から刊行時期が大幅に遅れ、執筆していただいた方々には大変ご迷惑をお掛けしましたが、ようやく下記のように刊行が決まりました。2025 年度の後期授業からスポーツ政策関連授業のテキスト、参考図書等としてご活用できます。なお、本書は「第 1 部（理論編）学術研究としてのスポーツ政策学」、「第 2 部（実践編）社会におけるスポーツ政策」他で構成され、本文のみで 647 頁（予定）という大著として出版される見込みです。前著

「スポーツ政策論」（2011）と同様に、是非とも積極的にご活用いただけますと幸いです。

- ・書名：スポーツ政策学
- ・編集委員：齋藤健司・横山勝彦・真山達志・出雲輝彦

- ・刊行予定：2025 年 9 月 1 日（※成文堂）
- ・定価：未定
（編集事務局：出雲輝彦）

◇2025・2026 年度期の役員及び理事会

※以下、敬称略

【会長】

真山達志

【理事】

新井喜代加、石黒えみ、石堂典秀、出雲輝彦、沖村多賀典、尾原弘恭、川井圭司、日下知明、黒澤寛己、齋藤健司、庄子博人、高橋義雄、武田丈太郎、谷藤千香、内藤正和、中西純司、中村祐司、中森康弘、成瀬和弥、日比野暢子、日比野幹生、平塚卓也、松畑尚子、真山達志、森浩寿（以上、25 名）

【監事】

井上洋一、森克己

◇事務局の移転

次回理事会で新事務局が決定される予定です。

日本体育・スポーツ政策学会 会報第 34 号

発行日：令和 7（2025）年 3 月 31 日

発行人：日本体育・スポーツ政策学会

会 長：横山勝彦

編 集：理事会広報担当 眞鍋隆祐

運営委員 植田俊

事務局：〒520-0503

滋賀県大津市北比良 1204

びわこ成蹊スポーツ大学

黒澤寛己 研究室

Email：sportseisaku@gmail.com